第４学年　国語科　単元名「ごんぎつね」

１．目標

○　ごんの人生について「幸せ」だったのか、「不幸」だったのか、本文中の叙述を基に話し合うことができる。【読むこと】

２．指導計画（⑫時間扱い）

見通す　取り組む　振り返る

①時　ごんの人生について単元を通して考えることを伝える。

②時　ごんはどんなきつねか話し合う。

③時　あなの中にしゃがんでいたごんの気持ちを話し合う。

④～⑨時　第１場面～第６場面までのごんの気持ちを話し合う。　←学び合いの例

⑩時　ごんは「幸せ」だったのか、「不幸」だったのか、自分の立場を決める。

⑪時　ごんは「幸せ」だったのか、「不幸」だったのか、立場を決めた根拠を考える。

⑫時　ごんの人生は「幸せ」だったのか、「不幸」だったのか、学級で話し合う。

３．第⑨時について

○目標　ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの気持ちを話し合う。【読むこと】

見通す　取り組む　振り返る

活動①　前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。

今日の学習課題「ぐったりとうなずいたごんの気持ちを話し合おう。」

活動②　第６場面を読み、ごんの気持ちが伝わってくる文章にサイドラインを引く。

Ｔ：ごんの気持ちが伝わってくる文章とはどんな文章ですか。

Ｓ１：ごんが言ったセリフの部分です。

Ｓ２：ごんがした行動を表している文章です。

活動③　第１意見を座標軸に書き込む。

Ｔ：兵十が「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」と言った後、うなずいたごんはどんな気持ちだったでしょうか。

活動④　グループで意見を交流し、話し合う。

Ｔ：第１意見をもとに、話し合いをしましょう。

Ｓ３：「やっと気付いてくれてよかった。」という気持ちだと思う。

Ｓ４：最後までつぐないをやり遂げたという達成感があった。

Ｓ５：「本当は友達になりたい」と思っていたのに、撃たれて悲しいと思っていた。

活動⑤　第２意見を座標軸に書き込む。

Ｔ：話し合いで出た友達の意見を踏まえて、第２意見を考えましょう。

Ｓ６：第５場面で「つまらない」と思ったのは、友達になりたかったからで、その願いが叶わなかったのは悲しい。

Ｓ７：「気づいてくれて、ありがとう」

Ｓ８：兵十の最後の言葉がうれしかったのではないかと思う。

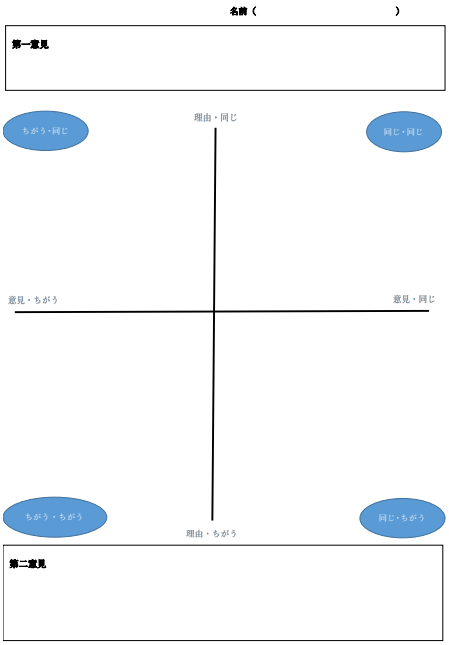
活動⑥　今日の学習を振り返る。

（Ａさん）兵十に撃たれたことはとても悲しいと思っていると思うけど、最後に今までのつぐないが自分だったことを気付いてくれてうれしい気持ちでうなずいたと思う。

（Ｂさん）最後に気付いてくれたけど、ごんの本当の思いは兵十と友達になりたかっと思う。だからそれが叶わなかった寂しさのありながらうなずいたと思う。

４．学び合いの例について

【活動③・⑤：座標軸の活用】



（手だて）

① 「聞く」を意識するための手立て

発表者の意見を「自分の考え」と比べながら聞くことをより意識できるように、「座標軸」に書き込む活動を入れた。

「座標軸に書き込む」という目標があることによって、発表者の話しをしっかり聞いたり、疑問の思ったことを質問したりという児童の様子が自然とみられるようになる。

② 自分の考えを深めるための手立て

話合いを行う前に、本時の場面を読み考えたことや自分が現在もっている知識などから「第１意見」を考え、書き入れる。

「第１意見」をもとにして小集団での話合いを行い、多様な意見に触れていく中で、完成した座標軸を参考にし、考えた深めた結果を「第２意見」として書き入れる。

③ 多様な意見を活用するための手立て

完成した座標軸をもとに「第２意見」を考えていくときに、多様な意見を効果的に活用するために３つのパターンを児童に示した、１つ目は、「同じ・同じ」「同じ・違う」ゾーンの意見を活用し、自分の考えに他の人の意見を付け足して考えるパターン。２つ目は、「違う・違う」ゾーンの意見を活用し、自分の考えを１８０度変えるパターン。３つ目は、いくつかの異なった意見を組み合わせて新たな考えを生み出すパターンの３つを活動前に示し、「第２意見」を考えさせながら、話し合いを進めていくことでより効果的な意見交換を図っていく。

【活動④：学習形態・机配置（小集団活動・コの字型）】

（手だて）

①「深い学び」を目指した小集団活動

活動③の場面で考えた意見を、活動④において小集団で話し合わせることで一人一人が主体的に表現し合うことで対話が生まれ、ごんの気持ちについて根拠となる部分を多面的にみることができ、思考が深まっていくようにする。

また、一人一人が発表する機会を与えることで「話すこと」の力の育成にもつなげていく。

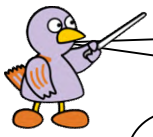
② 話し手・聞き手がお互いに意識し合うコの字型の机配置

机の配置をコの字型に配置することで、目線や姿勢が黒板向きではなく、児童同士が自然と向き合い、顔を合わせながら発表をすることができるようにする。「話し手は聞き手を」「聞き手は話し手を」意識し合いながら話合いを進めることで、話し手は「話す」から「語る」。聞き手は「聞く」から「聴く」へと意識も変化していく。そうして意識を高めていくことで「もっと上手にできるようになりたい」という気持ちの高まりに応じて、「語る」「聴く」ができるように話型や聞き方のポイントの指導を行い、確実な定着を図っていく。

小学校　第４学年　国語科

単元名　「ごんぎつね」

取組のワンポイントアドバイス



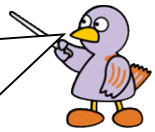
こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

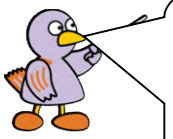
物語の「読むこと」の目標を達成するために、単元を通して「話合い」の中で考えを深め、読みを深めていくための授業展開の工夫に取り組みました。

児童一人一人が「深い学び」を実現し、自分の思いを「語る」ための話型の指導や「３つのきく」（物語にきく・人にきく・自分にきく）を設定し、児童の「きく」力を高めていくための指導を行ってきました。

＜３つのきく＞

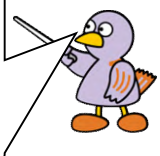
・物語にきく～叙述に即して、登場人物の気持ちを読み取ること
・人にきく　～自分の意見と比べて聞き、「共通点」や「相違点」に気付きながらきくこと。
・自分にきく～友達の意見を踏まえて、自分の考えを深め、意見にすること。





「人にきく」場面では、「座標軸」を思考ツールとして活用しました。

「座標軸」では、右上を自分の意見と根拠がほぼ一致する人「同じ・同じ」ゾーン。右下を自分と意見は同じだけど根拠が違う「同じ・違う」ゾーン。左上を自分と意見は違うけど根拠が似ている「違う・同じ」ゾーン。左下を自分と意見も根拠も違う「違う・違う」ゾーンとして設定し、発表者の意見と自分の考えを比べ、座標軸に書き込みながら聞くことで「比べて聞く」ことを意識させるようにしました。

児童は、「同じ・同じ」ゾーンの人とは考えを共感し合い、「違う・違う」ゾーンの人とは意見をぶつけ合う場面もみられました。

また、「同じ・違う」ゾーンや「違う・同じ」ゾーンの人とは、同じような考えをもっているのに根拠としていることが違うという新たな「気づき」や根拠は同じなのに考えたことが違うという「価値観」の違い感じるなど、意識して「聞く」ことによって、様々な「気づき」が生まれ、深い学びへとつながっていきました。